*・・・水産試験場の仕事・・・

魚を減らさないで、かしこくとり続けるための研究

魚は石油などと違って、上手にとれば減ることはありません。水産試験場ではどのように魚をとればいいのか調べるために研究しています。

鳥取の海や漁*たちをどうやって調べるの?

調査のほとんどは、第一鳥取丸で行っているんだ。 紫があまり、まからもより、生がないできるとりまる。 からないで行っているんだ。 からないである。 がいけんきょういない。 船長、機関長、船員の合計11名と 4名の研究員で 調査しているよ。

これが第一鳥取丸で、全長 43m の大きな船なんだ。 たくさんある調査用の漁具や海洋観測の機械の一部を 紹介しよう。

大きなあみでカニやカ レイをとって、どうする のだろう?

調査用の底びきあみで、鳥取 物を定の松葉ガニ(ズワイガニ) や、アカガレイなどがどこにど れだけいるか調べているんだ よ。カニが少なくなったら小さ なカニをとらずに保護するよう 漁業者に呼びかけているよ。 小さな網で魚も とっているの?こ のたくさん筒が付 いている機械は何 だろう?

鳥取丸

主な産卵期 (3~6 一角) にネットで卵 や 雑魚 を とって 無事に生まれたか 調べているんだよ。



海の様子は季節によって変わるから、とれる魚の種類や量も変わるんだ。だから、毎月海水の変化を調査しているよ。上の機器で水深

1000m まで 100m ごとに水をと

ることができて、下の機器では 水温と塩分を 1m ごとに測ること ができるんだ。

2 匹イカが釣れているよ!

時には全部の針にイカが釣れているときもあるよ。7月に青森から鳥取の各県の試験船で日本海にスルメイカがどれだけいるかいっせいに調べて、その年に生まれたイカが多いか少ないかを計算して、どれだけとっていいか決めるんだよ。

